

校長室だより

令和8年1月9日（金）
第 36 号
十日町市立中条中学校校長室

新年あけましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。令和8年のスタートです。本年もよろしくお願いいたします。8日（木）の始業式で以下の話をしました。

今日から2026年の授業が始まります。今年はどんな年にしたいですか。一人一人が決意を新たにしていることと思います。

年末年始、様々なスポーツイベントが開催されました。そのことから少し考えます。

箱根駅伝での青山学院大学の逆転

1区では、16位と大きく出遅れましたが、2区から4区にかけて着実に順位を上げました。5区につなぐ小田原中継所ではトップとの間に3分24秒差をつけられる苦しい展開でした。しかし5区でキャプテン・エースの黒田朝日（4年）が投入され、黒田は5区（20.8km）で1時間7分16秒という前人未到の区間新記録をマーク。この圧巻の走りで最後尾から一気に逆転し、芦ノ湖のゴールでトップフィニッシュを成し遂げました。結果、青山学院大は往路、復路、総合新記録になり、3年連続&通算8度目の往路優勝、総合では9回目の優勝を飾りました。



帝京長岡高校サッカー、逆転劇

全国高校選手権大会2回戦、山口県の高川学園高校を相手に、後半のアディショナルタイムまで0-2とビハインドの苦しい展開でしたが、後半アディショナルタイムに同点に迫りました。試合はPK戦に突入し、帝京長岡が4-3で勝利を収めました。3回戦も1-0で勝利しましたが、残念ながら準々決勝で敗退しました。



これらのことから私たちは学ぶべきことが大きく2つあると思います。「最後まであきらめないこと」と「準備を怠らないこと」です。

駅伝の青山学院も帝京長岡のサッカーも普通に考えれば、逆転は難しいと思うでしょう。駅伝の1区16位を見て、今年はダメだなと思ったのは私だけではないと思います。またサッカーも後半の時間が迫るにつれて同じ気持ちでした。しかし、選手や関係者はあきらめてなかったということです。最後まで自分たちを信じてやりきること、これが結果につながったと言えます。

また、そのための準備をしてきたことは間違いありません。準備をしてきたからこそ、自分たちを最後まで信じて取り組めたのだと思います。

アメリカ独立の立役者ベンジャミン・フランクリンは「準備を怠る者は、失敗を準備している」 準備不足は失敗の原因になるという意味です。

2学期の終業式で、「夢や目標を持つことは、ただの願いではなく、あなたの行動を決める力になる。たとえ今できないことがあっても、一歩ずつ前に進む勇気を持つことです。」と話しました。これこそ準備です。そして準備を確実に積み重ねることで、あきらめない自信へとつながります。日々の生活の中で、頑張ったという小さな成功体験を積み重ね、それがどうであったかというフィードバックを繰り返していくことだと思います。学校は皆さんの準備づくりを応援していきます。

原監督のコメントから深堀する

青山学院の原監督のコメントをお借りしながら、私たちの学校生活に生かせる内容を、深掘りしてみたいと思います。

コメント1「でこぼこのチームでも、気持ちひとつになれば力を発揮できる」

原監督は往路優勝インタビューで、チームについて次のように語っています。「今年のチームは決して全員が飛び抜けているわけではない。でこぼこの駅伝チームだけど、みんなが自分の役割を理解して一致団結できた」



→ここでいう「でこぼこ」とは、悪い意味でないと思います。「一人一人は違う、個性がある。それを自覚すること。」学校生活で言えば、「クラスも部活も、全員が同じレベルでなくていい。今、自分にできる役割を一生懸命やることが、チームの力になる。」ということだと考えます。

コメント2「焦らず、今できることを積み重ねた結果」

1区で青学大は16位と大きく出遅れました。それでも原監督は、「スタートで出遅れても、選手たちは焦らず、それぞれが“今やるべき走り”をしてくれた」と話しました。



→最初からうまくいくことばかりではありません。学習面でも生活面でも、つまずきや失敗を経験することがあります。大切なのは、その場面で立ち止まったり、あきらめたりするのではなく、次にどう行動するかを考えることです。日々の小さな努力の積み重ねが、やがて大きな成長へとつながっていくということだと思います。

コメント3「主役は選手。指導者は環境をつくるだけ」

「走ったのは選手。私は走っていない。どうやったら選手が自分で力を出せるか、そこを考えただけ」

→これは、学校や保護者が考えるべきことなのだろうと思います。「最後にやるのは先生でも親でもなく、子ども、生徒」「学校、保護者は支える役」だと改めて考える必要があります。学校としては、これからも子どもたちが安心して挑戦し、失敗から学び、再び前に進める環境づくりを大切にしていきたいと思います。

ご家庭でも、子どもたちが安心して挑戦できる声掛けをお願いしたいと思います。

コメント4「自分を信じる準備をしてきた」

5区で大逆転を果たした黒田選手について、原監督は「日頃の準備があるからこそ、大事な場面で自分を信じて走れる」とコメントしました。

→これは、始業式の話の中で一番伝えたかったことです。「コツコツやった人ほど、本番で強い」「才能より準備」まさにこのことかと思います。「努力は裏切らない」ともよく言われます。

私は、以前に原監督の講演会を聴く機会がありました。その時に、この人は指導者であるが、それ以上に経営者であると強く思いました。「選手の現状や環境をしっかりと把握し、目標を立てて、そこに向かう筋道を確実に作る。」当校の学校経営にも生かしたいことばかりです。

